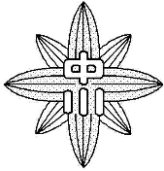


横浜市立



令和4年10月31日発行
中川小学校だより 11月

学校教育目標 人・自然・まちとふれあいながら、自分を高める中川の子



「ゾウ」がいっぱいの学校に

副校長 村田 篤子

10月22日(土)、中川小学校では運動会が開催されました。コロナ禍による制限の中でしたが、保護者の皆様にご参観いただきました。ありがとうございました。

練習中、「運動会なんて大嫌い」とつぶやいた子がいました。ちょっとドッキリする言葉です。「やってみたら楽しいかもしれないよ。」「何が嫌なのかな。」「どんな言葉をかけようかな、と思案していたら、近くにいた子が「そうだよなあ、ゲームの方が楽しい!」と明るく言って、その子は「それな!」とカラカラ笑って競技の練習に参加しました。「ゾウ(やるぞう)」が生まれた瞬間でした。

さて、運動会当日。子ども達の表情は「やるぞう!」がいっぱいでした。「運動会」に向かって、それぞれいろいろな道を進んできたからかな、と感じます。前述のように、マイナスな気持ちが友達の声かけで軽くなった子もいれば、応援団のひたむきな姿に勇気をもらい、「自分も頑張ろう」と思った子も。「みんなでやれば、大きなシャボン玉になるね」と協力する素晴らしさに気づいた子もいれば、友達に優しい言葉で手紙を書いた子もいました。

運動会は、「運動する会」ではなくて、「運動を通して学ぶことがいっぱい詰まっている会」だと私は考えています。「運動会」に向かう道は1本ではなく、くねくね道も、上り坂もあります。その道で、頑張る気持ちも、受け入れる優しさも、子ども達は子ども達の関わりの中で学んだことでしょう。「やりなさい」と大人が言うよりも「そうだよなあ」と友達に受け入れられて「(練習を)やるぞう」という気持ちが芽生えたように。

「やるぞう(ゾウ)」は子どもの気持ちから生まれます。子ども同士がコミュニケーションを豊かにとれるよう、支援していきたいと思えます。

「サイ(やりなさい)」よりも「ゾウ(やるぞう)」がいっぱいの中川小学校をめざして。